

変わりゆくバックアップディスクの役割

Change Block Tracking、クラウドベース・リカバリー、インプレース（即時）リカバリーなどの機能の登場により、ディスクバックアップ・デバイスの設計は進化の必要に迫られている。以前であれば、ディスクバックアップ・アプライアンスに転送されるデータは、（大きなファイル、多数のファイルを一斉にという形で）帯域に重点が置かれていた。現在では、データは実際のところ、はるかにランダム（変更された小さなブロックが一日中転送される）になっている。さらに、今や仮想マシン（VM）はデバイスから直接実行できるため、ディスクバックアップ・アプライアンスのパフォーマンスが鍵になってくる。我々は近いうちに、VMの実行用に半導体ストレージを内蔵したディスクバックアップ・アプライアンスを目にすることになるかも知れない。